

# 放課後等デイサービスガイドライン自己評価表

## 回答率

事業所職員： 3名回答、回答率100%

保護者様： 28名回答、回答率80%

## 職員の意見

### ○環境・体制整備

- ・パーティションなどを活用して空間を分けてスペースの確保はできている。使用していない訓練室を一時的に使用できるようにして、クールダウン等の個々の状況に合わせた対応をしている。
- ・床の貼り換えをしたため、マットのつなぎ目で足をつまづかせることなく安全に活動することができる。
- ・訓練室の近くに玄関がある間取りのため、支援時間前後の出入りが頻繁にある時間帯は児童の飛び出しのリスクがある。施錠や飛び出し防止の掲示をするなど、常に注意を払っている。

### ○業務改善

- ・支援の質の向上を図る社内研修を受講している。
- ・事務的な業務が滞ってしまうこともあり、定期的に改善を図りながら対応していけると良い。支援の環境については、他部署の心理士や作業療法士から助言をいただき改善を図っている。

### ○適切な支援の提供

- ・業務前ミーティングにて、日頃の児童の様子や保護者様からの情報を共有し、支援方法の具体案などを職員全体で話し合い、振り返りを行っている。
- ・日頃の情報共有、心理士や作業療法士など専門職からの助言をもとに、毎月の活動プログラム、お子様それぞれの目標設定や課題の提供に努めている。

### ○関係機関や保護者との連携

- ・日頃からの聞き取りに加えて、お子様について個別の相談を受けた際は、必要に応じて保護者様や学校側と連携、情報共有を行っている。また、ご自宅で出来そうなことへの助言等もお伝えするようにしている。
- ・外部の関係機関からのチラシなどを、保護者様が目にしやすい場所へ掲載するなどしている。

### ○保護者への説明責任等

- ・日頃から丁寧に子どもの様子や必要書類などについてお伝えするよう心掛けている。
- ・保護者参観や保護者会など、保護者同士の交流の場を設ける時期を調整し、多くの方が参加できるように工夫していきたい。

### ○非常時等の対応

- ・安全計画を基に、様々なテーマでの毎月の避難訓練や、各マニュアルに則った対応と訓練を時期に応じて実施している。

## 保護者様のご意見

### ○環境・体制整備

- ・スペースが十分に確保されているかの質問に対して、7割の方が「はい」と回答いただいた一方で、「身体を動かす活動では少し狭い気がする」「音に過敏なお子さまにはパーテーションだけだと難しそう」等のご意見もいただいた。
- ・常に基準人員の配置は行っているが、「職員が忙しそうなので、もう1名増員できるとよい」といったご要望をいただいた。

### ○適切な支援の提供

- ・支援提供に関して、7割以上の方から良い評価をいただけており、「先生方のことは好きでよく懐いています。」や「いつも優しく接してくれてありがとうございます。ずっといてほしいです。」とのご意見もいただいた。一方で、「やることがパターン化されているため、行事などのバリエーションある活動をしてほしい」といったご要望もいただいた。

### ○保護者への説明等

- ・お子様についての共通理解をもっているか、共感的に指導員が支援できているかについて、8割以上の方から「はい」とご回答いただいた。
- ・保護者同士の交流の機会や家族への支援について、7割の方から「わからない」とご回答いただけており、ペアレントトレーニング等について保護者の方への情報共有の機会を求めるとのご意見もいただいた。保護者会や療育参観の実施を検討する必要がある。
- ・子育てに関する助言について、「話をする機会が以前より減った」とご意見をいただいた。

### ○非常時等の対応

- ・避難訓練の実施や避難場所について、3割弱の方から「わからない」と回答いただいた。教室内の掲示やフィードバック時に伝達を行っているが、周知方法の工夫が必要である。

### ○満足度

- ・「こどもは安心感をもって通所しているか」「こどもは通所を楽しみにしているか」の質問に、7割以上の方が「はい」と回答いただき、お子様の感想や成長を喜ぶ声もいただいた。
- ・生活面や対人スキルに焦点をあてた支援が多く、中学や高校、就労に向けての支援が少ないとのご指摘もいただいた。

## 昨年度の振り返り

### ○今年度の取り組む具体策

- ・それぞれの部屋のパーテーションを調整することで、どの部屋もそれぞれの活動に見合った活動スペースを確保できるように工夫する。
- ・話し合いの際に前回の療育の引き継ぎをより綿密に行い、全員が同じように支援を行えるよう努める。
- ・朝礼・昼礼・終礼を行い、定期的に報告連絡を行う機会を設ける。

### ○改善できた点・まだ残る課題

- ・個別と集団・小集団の部屋をパーテーションで区切る事で活動の切り替えを促す事ができた。
- ・以前よりミーティングで情報共有を行う機会が増やせたが、今後も具体的な支援方法の共有に努め、より統一した支援を行っていききたい。
- ・業務内容の報告漏れがないよう、事務室内の掲示やメモ、毎日のミーティング時を利用して、教室全体で情報を把握して業務にあたるよう徹底していききたい。

## アンケート結果からみる教室の強み・改善点

### ○教室の強み

- ・子どもの特性に寄り添った対応、発達段階や目標に合わせた課題や療育内容を考えて支援の提供を行っている。
- ・日ごろから丁寧なフィードバックや保護者との情報共有を行い、療育や支援などに繋げ、安心感をもって通える空間を提供している。

### ○改善点

- ・教室内の環境を整え、お子さまそれぞれの特性に配慮した空間を作っていく。
- ・普段顔を合わせる機会の少ない保護者同士の交流の場を設ける機会を作る。
- ・災害時等の避難場所について周知の不足があった。保護者様が把握しやすい形での周知方法を検討していく。
- ・支援内容や活動の様子についての説明、掲示方法の工夫をしていく。

## 中長期的な改善計画・1年間で取り組む具体策

### ○中長期的な改善計画

- ・保護者同士の交流の機会や療育参観等の実施に向けた調整を行っていく。
- ・子どもの様子や課題、保護者の悩み等お話を継続的に聞き、助言等を行うことで保護者支援、家族支援に繋げ、より丁寧な支援の提供や相談しやすい関係性、環境づくりを目指す。
- ・避難訓練実施内容に経路の確認、練習を取り入れたり、避難場所や経路を待機室にも掲示するなど、保護者様の目に入りやすい環境を作る。

### ○1年間で取り組む具体策

- ・災害時等の避難場所について、掲示だけでなく、避難訓練などを行った際のフィードバックでも再度直接お伝えすることで再周知を図る。
- ・事務的な業務や子どもの支援や様子について、ミーティング内で全体共有をして行く。また、個々の判断ではなく上長の判断を仰いだ上で業務にあたるようにしていく。
- ・保護者会や療育参観の時期を調整し、保護者の方が参加しやすいように実施していく。